

インターネット・ガバナンス に関する議論の動向

2004年4月14日

会津泉

(株)アジアネットワーク研究所

<izumi@anr.org>

国連インターネット・ガバナンス WGの課題

1. インターネット・ガバナンスの作業上の定義を作成
2. インターネット・ガバナンスに関連する公共政策課題を特定
3. 途上国・先進国両者の政府、政府間機関、国際機関、産業界、市民社会の役割と責任、共通理解を育成
4. 2005年のジュニスWSISで適切な行動をとれるよう、活動結果を報告書にして提出
 - 政府、産業界、市民社会、国際機関がフルに参加
 - スイス政府が事務局に

ITU インターネット・ガバナンス ワークショップ 2月26-27日

「専門家」によるプレゼン、パネルが主

「Civil Society」から多くの発表者

Wolfgang Kleinwachter (ドイツ), Bertrand de La
Chapelle (フランス), William Drake (アメリカ),
Milton Muller (アメリカ)

Vittorio Bertola (イタリア/ALAC), Izumi Aizu (日本
/ALAC)

Karl Auerbach, Marc Holitscher (スイス), Daniel
Weitzner (W3C)

ICANN、“インターネット・コミュニティ”からも参加
CENTR、RIPE、ルートサーバー委員会、、、

基本的には「言い放し」

- **スピーカーは欧米先進国のみ**
 - アジア・太平洋 = 会津、韓国のネットピア (追加)
 - アフリカ、ラテンアメリカ = ゼロ
- **会場には、多くの途上国政府から参加**
 - 発言は、シリア、中国、インド、ブラジル
 - ITUのポジションを決めるものではない
 - 「参考」にはする？

気がついたトピックス

- 「レイヤード・アプローチ」
 - ガバナンスはレイヤー別に適用すべき
- ccTLDの現状
 - 政府の関与など、見方が分かれている
- 「文化の多様性」、一般論としては認めるが、具体的な話にはならない
- ICANNがテーマの中心
- ITUの果たすべき役割は依然曖昧
 - 中国、シリアなど：積極役割を期待
 - ICANN、市民社会、産業界は、否定的
- ITUにも、「市民社会」が参加する？

ICANN ローマ会議 WSISワークショップ 3月4日

- ICANNの「内部会合」 多数の参加
 - 各支持組織が5分づつ発言
- Civil Society Internet Governance Caucusを招待
- とくに「合意」はなし
 - 「情報の共有」のみを目的
- AtLarge、CivilSocietyへの認知向上
- ICANN、懸念は強いが、「ロープロファイル」作戦

国連ICTTF Global Forum

3月26 - 28日

- ITUワークショップと重複参加も多い
- 基本は「言い放し」、分科会では突っ込んだ議論も
- ICANN以外に、ホットなテーマはとくに浮上しなかった
- 「If it is not broken, don't fix it 壊れてないなら直す必要はない」(サーフ)が議論に、「現状維持の口実だ」(オーレバック)
- 途上国の不満・批判へのまともな答えはなかった、
- ガバナンスへの「政府、産業界、市民社会」の参加は多数意見、しかし「参加」の具体的内容は議論にならず
- ICANNの課題
 - 「信頼」の確立、米国一国体制からの国際化、ユーザー(市民)の参加
- スイス政府(クマール氏)が事務局担当、正式発表

分科会：一般論に終始

- 1, 2 インターネット・インフラストラクチャー
 - 国際接続問題
 - ICANN、DNS
 - ネットワーク・セキュリティ
 - メタ・イシュー(手続き、組織、)
 - 人材開発の重要性
- 3、4 トランザクションとコンテンツ
 - 法的管轄権(jurisdiction)
 - 電子署名、プライバシーとデータ保護、言論とコンテンツの自由、消費者保護、IPRとインターネットの影響、人権

政府の発言は少なかった

- 中国、フォーラムでは沈黙
 - 翌日のICTTF会合で、「政府間組織」を主張
- 南ア、ブラジル、
 - DNSの米国管理からの脱却を主張
 - NRO (RIR)も同様の主張
- 「政府間国際組織 (ITUなど) の管理」という主張は薄かった
 - 南アも「国際組織」を主張、「政府間組織ではない」と言明

最大の論点

- 国際政治の底流を背景に
- インターネットの「管理」は民間主導か政府主導か？
 - 分野、領域、レイヤーによって異なる、
- 「国際」レベルの問題の政府同士の調整は国連機関か、他の組織形態もありえるか
- 市民 = 利用者の参加をどこまで認めるか
 - 政府も、産業界も

インターネットガバナンス関連の国際会議 2004

時 期	名 称	開催地
2004年2月	APRICOT2004	クアラルンプール
	ITU インターネット・ガバナンスWS	ジュネーブ
3月	ICANN会議	ローマ
	国連ICT TFグローバルフォーラム	ニューヨーク
	APT インターネット・ガバナンス会議	バンコク
5月 10-14日 19-21日	INET2004	バルセロナ
	国連ICT TFアジア地域会合	上海
6月24-26日	WSIS II Prep Meeting1	チュニス
7月	APAN / APNGキャンプ	ケアンズ
	ICANN会議	クアラルンプール
9月	国連事務総長WG会議？	
11月	インターネットウィーク	横浜
12月	ICANN会議	ケープタウン
	国連事務総長WG会議？	

インターネットガバナンス関連の国際会議 2005

2005年1月	WSIS II PrepCom2	チュニス
2月	APRICOT2005	京都
3月	国連事務総長WG会議？	
	ICANN会議	中南米
4月	国連ICT TFアジア地域会合？	
5月	INET2005？	
6月	ICANN会議	北米
7月	国連事務総長WG会議？	
9月	WSIS II PrepCom3	チュニス
11月	ICANN会議	ヨーロッパ
	WSIS II	チュニス

「インターネット・ガバナンス・タスクフォース」 が日本にも必要？

● 目的

1. 日本で社会的に安心・信頼できるインターネットの運用・管理・利用の体制の確立
2. 民間主導の体制で
3. 産業界、市民・利用者、政府の相互協力を推進
4. 国際活動への参加・貢献

具体的な活動内容

インターネット・ガバナンスの定義と検証

日本のネット・ガバナンス発展のための実践

- 自律分散協調 / マルチステークホルダーで
- 日本での活動をモデル化
- 利用者の関与を推進する

国際社会の協調活動への参加・貢献

- 日本での活動成果に基づき、WSIS、ICANNなどの国際活動に参加・貢献
- ICANN ALアジアの組織化に貢献